



栃 木県那須町で、店の内装
やストローベイル（稲ワ
ラのブロック）ハウスビルダ



地域おこし協力隊が
出会った素敵な人紹介

自然に寄り添いながら
自分たちで出来ることを
松浦進介さん・聖子さん
(財 田)

ーとして働いていた松浦進介さんと聖子さん夫妻は、2011年の東日本大震災を機に北海道へと移住しました。「那須と同じように自然に囲まれた自給自足に近い生活を、北海道でもう一度できたら」と思い、終の棲家を求めて、札幌市や長沼町に居住してきました。たまたま訪れた洞爺湖の風景に魅了され「この場所なら昔のような自然に寄り添った暮らしができるのではないか」と月浦地区に移住しました。

現在住んでいる財田の家と出会ったのは、洞爺湖町に移住してから2年経った2015年1月。「たまたま親水公園の前を通った時に偶然に見つけた」という物件は、築1000年を越える古民家。この古民

家を、進介さんが一人で1年間改修し、今年の5月から聖子さん、二人の娘さんとの家族4人で住み始めました。

「人が集える場所をずっと創りたかった」と目を輝かせて話す聖子さん。9月には友人のアーティストを招いて、念願のアコースティックライブも行い、30人を超える人達が集まりました。今後は「ゆっくりとこの空気を味わってもらえたら」とクラフトの展示やワークショップ、そしてカフェスペースの設置など、聖子さんの夢は広がります。

とうや水の駅前7月にオープンした「Café Lake Toya」の内装をデザイン、施工するなど、地域での仕事も精力的にこなしている進介さん。今後は環境に優しい自然素材を使った小屋やストローベイルハウスを建てたりなど「自分達が活かせることで財田の地域に還元できたら」と考えています。「周りと協力しあいながら、自分たちで出来ることを着実に実行していきたい」。

(安嶋)

東奔西走

平成28年も最後の月となりました。洞爺湖町の1年を振り返ってみましたが、皆さんは、今年どういう1年でしたでしょうか。私は、いつにもまして早く過ぎた1年のように感じました。

年を重ねる度に、子供の頃は特別行事であつたお正月が、単なる日常の延長でしか感じられなくなってきたのは寂しくもあります。(H.O)

今月のワンショット



虻田エアリアル



第16回 洞爺湖町教育長杯小学生バレーボール大会で健闘した虻田エアリアルのメンバー

人口と世帯の動き10月31日現在(先月比)

男	4,246人	(+ 4)
女	4,943人	(△ 1)
計	9,229人	(+ 3)
世帯	5,007世帯	(± 0)